

# 舞台芸術はどのように地域社会と向き合えばいいのだろうか 文化芸術施設はどんな役割を果たしてゆけばいいのだろうか いくつもの課題のなかに私たちの役割と未来があった

近年、社会包摂という考え方が舞台芸術の分野でも用いられるようになった。子どもたちや高齢者、障がい者や性的マイノリティの人々、貧困や災害や犯罪に苦しむ人々、移住者や在留外国人…など、こうした人たちが舞台芸術を通じて社会参加の機会を創り出していく動きであり、国としても全国的な支援政策が始まろうとしている。

アートファームでは、2000 年前後から障がいをもった人々とのダンスワークショップに取り組んだり、介護施設や保育園にダンサーを、中学校や高等学校に演出家を派遣するアウトリーチ事業を行ってきた。さらに、2011 年からは岡山市内の小規模小学校に演劇とダンスのアーティストを派遣して、全校生徒を対象にした創造体験授業の「学校でひらく舞台芸術教室」(福武教育文化振興財団との協働事業)を継続してきた。

一方、地域における公立の劇場やホールなど文化芸術施設の役割も大きく変わろうとしている。外因的には文化芸術基本法や指定管理者制度、劇場法などの制事が影響を及ぼしているが、各地の文化芸術施設が抱えてたつ都市環境や文化活動の変化を見逃すことができない。

アートファームでは、1994 年に「ホールのあるまちづくり」と題するシンポジウムを手始めに、舞台芸術や文化政策の第一線で活躍する専門家を講師に迎えた「劇場セミナー」シリーズを継続開催してきた。少子高齢化の進展、中心市街地の空洞化、都市間競争の激化などが際立つなかで、これからの文化芸術施設は、従来のような限られた実演家や鑑賞者のための施設ではなく、それを核に創造的な文化芸術を発信し、社会包摂の機能を有し、交流や滞在が生まれ、賑わいのあるまちづくりにつながる、分野や圏域や国籍や性差を超えた公共財としての役割が求められている。

## Column

### 小規模小学校をモデルに成果をあげる 学校でひらく舞台芸術教室

少子化・過疎化の影響は地域のさまざまな課題として表面化しているが、小学校における生徒数の減少も重要なひとつといえる。アートファームでは 2011 年から公益財団法人福武教育文化振興財団と共同主催して、岡山市内の小規模小学校を対象に演劇とダンスのアーティストを派遣する「学校でひらく舞台芸術教室」を実施してきた。

これまでに 1 校あたり 2～3 年ごとのサイクルで 5 校の実績を重ねてきたが、その内 4 校は 20～70 人台の全校生徒を対象にした創造体験授業であった。演劇やダンスの第一線で活躍する演出家や振付家や俳優と行われる授業は刺激と活気に満ちていた。高学年の児童が低学年の児童をサポートしたり、ハンディを抱えた仲間への気遣いがあったり、全校生徒ならではの協調性が発揮された。どの実施校でも回を重ねるごとに自主性・創造性・積極性が一人ひとりの児童から感じられ、教師からは「日頃の授業では見せない」才能が随所に立ち現れた。



朝日小学校では鳥の劇場を講師に創造体験授業が継続されている

## ■劇塾

1995 年 10 月開講  
舞台芸術のすそ野拡大とレベルアップを目的としたワークショップやレクチャーを実施  
事業支援：岡山県

### □ワークショップ「態変って何やねん?!」

1998 年 9 月 20 日～11 月 23 日 (全 4 回) 会場：デビットホール  
講師：金満里 (舞踊家 / 演出家 / 劇団態変主宰)、劇団態変  
身体芸術にまで昇華させた重度身体障がい者の作品づくりを体験

### □ダンス・ダイナミクス・ワークショップ

2000 年 8 月 15 日 16 日 会場：西川イブラザホール  
講師：ヴォルフガング・シュタンゲ (舞踊家 / 振付家)  
国際的な舞踊家を講師に障がい者と健常者が共同で身体表現を体験



ダンス・ダイナミック・ワークショップ  
英国の舞踊家ヴォルフガング・シュタンゲを講師に迎えて、発達障害や身体障害などのハンディを抱える人々と健常者とが共に身体表現の豊かさを体験。コミュニティダンスの発達した英国ならではの手法が惜しみなく披露された。

## ■学校アウトリーチ

2009 年 7 月開始  
岡山舞台芸術ゼミナールの関連事業として講師・大岡淳を県下の中学校・高等学校に派遣  
事業支援：文化庁

### □中学・高校生のための演劇ワークショップ

2009 年 7 月 23 日 24 日 会場：岡山操山高等学校体育館  
実施校：岡山県立岡山操山中学校・高等学校  
講師：大岡淳 (演出家 / パフォーマー / 批評家)  
中学・高校一貫校の演劇部を対象に合同のワークショップを実施

### □中学生のための演劇ワークショップ

2010 年 1 月 22 日 23 日 会場：瀬戸内市立邑久公民館  
実施校：岡山市立備南中学校・瀬戸内市立邑久中学校  
講師：大岡淳  
両中学校の演劇部員が部活では経験できないワークショップを体験

### □中学生のための演劇ワークショップ

2011 年 1 月 29 日 30 日 会場：岡山市立芳田公民館  
実施校：岡山市立備南中学校・岡山市立芳田中学校・瀬戸内市立邑久中学校  
講師：大岡淳  
参加中学が 3 校となり各校の演劇部が多彩なパフォーマンスを体験

## ■舞台芸術と地域の交流塾

2011 年 4 月～10 月  
福武教育文化振興財団創立 25 周年記念事業をアートファームと共同主催した教育普及事業  
事業支援：福武教育文化振興財団

### □中高生のための犬島アート合宿

2011 年 4 月 29 日～5 月 1 日 会場：岡山市立犬島自然の家 (岡山市東区)  
参加校：宇野中学校吹奏楽部、西大寺高等学校ダンス部、総社高等学校演劇部  
講師：藤原麻紀 (ピアニスト)、山下残 (舞踊家)、大岡淳  
中学・高校生が犬島の滞在型学習施設で舞台芸術を 2 泊 3 日合宿体験

### □平田オリザの合同セミナー

2011 年 6 月 8 日 会場：岡山市民会館・会議室  
講師：平田オリザ (劇作家 / 演出家 / 青年団主宰)  
「学校と地域社会とアートの新しい関係づくり」をテーマに講演  
2011 年 7 月 22 日 会場：岡山シンフォニーホール・イベントホール 講師：平田オリザ  
「コミュニケーション教育の効果的な実践方法」をテーマに講演



### 「舞台芸術と地域の交流塾」 合同セミナー

福武教育文化振興財団の創立 25 周年事業として企画されたセミナー。コミュニケーション教育の重要性を説く平田オリザの講演に岡山下の教育・行政・文化関係者が大勢来場し、教育と文化が融合した実践例に耳を傾けた。



## ■犬島 海の劇場「関連企画」

2011年4月～10月

福武教育文化振興財団創立25周年記念を当団体と共同主催した創造発信・教育普及事業  
事業支援：福武教育文化振興財団

### □海から巡る犬島周遊船

2011年4月29日 会場：犬島遊覧船

対象：「中高生のための犬島アート合宿」に参加した中高生・教師・講師  
犬島町内会・安部壽之会長の案内により遊覧船で海から島を一周

### □対談・犬島発一現代演劇の新潮流

2011年6月24日 会場：pieni deux (岡山市北区出石町)

出演：松本雄吉 (演出家/維新派主宰)、村川拓也 (演出家)

犬島で新作に挑む二人の演出家が離島での作品プランを語り合う

### □維新派ワークショップ

2011年9月3日4日10日11日17日18日 会場：本涌山本行寺 (岡山市北区番山町)

講師：松本雄吉、維新派俳優2名 対象：野外劇「風景画」の出演者

犬島9月公演に先立って演出家・松本雄吉による6日間の実践的指導

### □旅する民俗学者・宮本常一を知る+語る

2011年10月1日 会場：岡山市デジタルミュージアム講義室

講師：神崎宣武 (民俗学者) 対談：神崎宣武、村川拓也

展示：周防大島の宮本常一記念館の協力で著作物などをロビー展示

宮本常一に師事した講師の回顧談と気鋭の演出家とが民俗学を語る



### 中学生のための犬島アート合宿

岡山市内の中学生を対象に1泊2日で開催されたアート合宿。初日は遊覧船で海から犬島を360度見学することから始まった。自然の家での演劇ワークショップから一緒に楽しんだ食事や宿泊まで、刺激と発見に満ちた中学生たち。

## ■学校でひろく舞台芸術教室

2011年～

福武教育文化振興財団創立25周年記念を契機にアートファームと共同主催でスタート  
過疎化・少子化の影響が大きい小規模小学校を対象に継続実施している教育普及事業  
事業支援：福武教育文化振興財団

### □2011年度

<創作体験授業> 5月14日～8月19日

実施校と講師：岡山市立角山小学校・全学年 (角ひろみ (劇作家)=演劇)

玉野市立宇野中学校・学年横断 (藤原麻紀=音楽)

岡山県立西大寺高等学校・ダンス部 (山下残)

岡山県立総社高等学校・演劇部 (大岡淳)

実施校に演劇・音楽・ダンスのアーティストを月1回ペースで派遣

<合同発表会&シンポジウム> 8月19日 会場：西川アイプラザホール

発表会：角山小学校、宇野中学校、西大寺高等学校、総社高等学校

シンポジウム：角ひろみ、藤原麻紀、山下残、大岡淳

実施校で創作した作品の一般公開と講師による総括的なシンポジウム

### □2012年度

<創作体験授業> 5月2日～7月11日

実施校と講師：岡山市立角山小学校・全学年 (角ひろみ=演劇)

岡山市立竹枝小学校・全学年 (北村成美 (舞踊家/振付家)=ダンス)

<合同発表会> 7月11日 会場：岡山市立竹枝小学校

継続の角山小に新規の竹枝小が加わり一学期を通じ隔週交互に実施

### □2013年度

<創作体験授業> 5月22日～7月12日

実施校と講師：岡山市立竹枝小学校・全学年 (北村成美=ダンス)

岡山市立朝日小学校・全学年 (須原由光 (舞踊家/振付家)=ダンス)

<合同発表会> 7月12日 会場：岡山市立犬島自然の家

朝日小が加わり両校とも創作ダンスを体験し犬島の合同発表に挑む

### □2014年度

<表現体験授業>表題：カラダで表現ワークショップ『パントマイムで遊んでみよう!』

7月15日：岡山市立竹枝小学校・全学年 7月16日：岡山市立朝日小学校・全学年

講師：小野寺修二 (演出家/俳優/カンパニーデラシネラ主宰)、藤田桃子 (俳優)

<創作鑑賞授業>

表題：演劇公演『ロミオとジュリエット』

10月4日5日：岡山市立旧内山下小学校体育館

10月6日：岡山市立竹枝小学校体育館 10月7日：岡山市立朝日小学校体育館

館原作：ウィリアム・シェイクスピア

翻訳：松岡和子 演出：小野寺修二

出演：斉藤悠、菊沢将憲、菅彩夏、岸本昌也、竹内英明、藤田桃子、小野寺修二

当年度は鑑賞体験をテーマにマイム集団によるシェイクスピア劇を招聘

### □2015年度

<創作体験授業> 5月26日～7月13日

実施校と講師：岡山市立朝日小学校・全学年 (北村成美=ダンス)

岡山市立馬屋下小学校・全学年 (大岡淳=演劇)

<合同発表会> 7月13日 会場：岡山市立馬屋下小学校

新たに馬屋下小が加わりダンス・演劇ともに創作性の強い体験授業

### □2016年度

<創作体験授業> 5月10日～7月5日

実施校と講師：岡山市立朝日小学校・全学年 (中島諒人 (演出家)、葛岡由衣 (俳優)

齊藤頼陽 (俳優)=演劇)

岡山市立小串小学校・全学年 (白神ももこ (振付家)=ダンス)

<合同発表会> 7月5日 会場：岡山市立朝日小学校

小串小が加わり朝日小は鳥の劇場メンバーによる3ヶ年継続を開始

### □2017年度

<創作体験授業> 5月10日～7月4日

実施校と講師：岡山市立小串小学校・全学年 (白神ももこ (振付家)=ダンス)

岡山市立朝日小学校・全学年 (中島諒人 (演出家)

齊藤頼陽 (俳優)=演劇、村上里美 (俳優)

<合同発表会> 7月13日 会場：岡山市立小串小学校

前年度と同じ講師陣を招聘して小串小と朝日小の共同開催を行った

### □2018年度

<表現ワークショップ> 12月14日

実施校：岡山市立馬屋上小学校・全学年

講師：小野寺修二、藤田桃子 (デラシネラ)

<古典名作劇場『ドン・キホーテ』公演> 12月14日

上演：カンパニーデラシネラ

最終年度は市内最小規模の小学校で優れた舞台作品の鑑賞公演を開催



創作鑑賞授業『ロミオとジュリエット』  
市街地の空洞化により廃校となった旧岡山市立内山下小学校の体育館で開催された。カンパニーデラシネラを主宰する小野寺修二による舞台は、身体言語を全篇にちりばめた構成となって世代や分野を超えて共感を呼んだ。

## ■アートとファームの学校

2014年5月開講

人材育成と普及啓発を目的とする自主事業として芸術文化から生活文化までを横断して実施

### □ひとり語りで創る～①私の歴史②家族の肖像③地域の物語～

2015年1月24日～7月12日 会場：丸の内テラス

ファシリテーター：角ひろみ アドバイザー：伊東大輔 (IT映像クリエイター)

3つのモチーフから独白テキストを創作し映像や音楽を交えて発表

### □60年代オマージュ～熱狂と越境の時代～

“黄金の10年間”と称され経済・政治・文化など全分野が沸騰した1960年代を検証

◇Vol.1 「アングラ演劇の誕生」

2015年7月4日 会場：丸の内テラス

講師：梅山いつき (近畿大学文芸学部舞台芸術専攻講師)

唐十郎、鈴木忠志、寺山修司らの演劇革命を新世代の視点から解明

◇Vol.2 「しげやん60年代を舞う」

2015年7月14日 会場：丸の内テラス

講師：北村成美

60年代ファッションと音楽に魅せられたしげやんがキュートに舞う

◇Vol.3 「舞踏創生期～祝祭とエロス、肉体の叛乱へ～」

2015年8月21日 会場：丸の内テラス

講師：大谷燠 (NPO法人DANCE BOX Executive Director)

土方巽の暗黒舞踏を起点に世界を席卷した「ブトウ」の出自を問う

◇Vol.4 「情報誌の誕生とカウンターカルチャー」

2015年10月29日 会場：丸の内テラス

講師：小堀純 (編集者/ライター)

時代の行方を照射した60年代情報誌。サブカル論を超えた視点から

### □偏愛日本酒講座

2016年4月23日～2017年3月18日 会場：丸の内テラス

講師：赤澤輝彦 (日本酒研究者/建築家)

全10回約100銘柄の日本酒を精選・解説・味わい蔵元訪問も併催

### □能勢伊勢雄大全

2017年8月19日～2020年3月27日

会場：丸の内テラス

講師：能勢伊勢雄

写真・映画・美術・音楽・美学など多分野にわたる営為を月1回レクチャー

### □平田オリザの木曜夜話

2020年6月25日 丸の内テラス 7月16日 丸の内テラス

2021年1月29日 国際交流センター 2月20日 国際交流センター

講師：平田オリザ

兵庫県豊岡市に移住した平田氏が地域発の文化政策を多角的に語った





### 偏愛日本酒講座

建築家で日本酒研究者でもある赤澤輝彦を講師に通年で開催した。毎月1回日本各地から赤澤セレクションの日本酒を10銘柄ずつ取り寄せて、季節ごとの肴とともに試飲。最終回には参加者とともに灘の蔵元へ美酒紀行した。

### ■劇空間フォーラム

1994年7月発足

舞台芸術や劇場・ホールによる地域づくりを主題にした講演会やシンポジウムの企画開催

□ホールのあるまちづくり

1994年12月3日 会場：岡山シンフォニーホール・イベント会場

事業支援：岡山市

チューター：衛紀生（演劇評論家）

コーディネーター：曾和敬明（岡山県演劇集団事務局長）

パネリスト：植田心社（岡山市立オリエント美術館館長）

大島正勝（岡山専門店会専務理事）

澤根育夫（おかやま街角コンサートプロデューサー）

是友智栄（岡山東部子ども劇場） 赤澤輝彦（VANS 岡山事務所所長）

中心市街地の内山下小学区に集積する公立文化施設のあり方を討議

□阪神淡路大震災シンポジウム

「われらが内なるKOB E ～表現の現場から～」

1995年3月30日 会場：自由工場（岡山市役所隣・大供ビル）

＜関西演劇人会議 95 阪神大震災連絡センター＞からの報告

小堀純（同会議世話人/編集者）

岡野亜紀子（神戸アートビレッジセンター・プレイベント実行委員会）

＜震災地ギャラリー＞からの報告

向井修一（三宮・シティギャラリー代表）

＜建築家フォーラム・自由塾＞からの報告

佐野宣夫（SANO アトリエ代表/建築家）

市民が自主管理する自由工場で震災2ヵ月半後の緊急シンポを開催

□劇場者現学・スライドレクチャー

「テント劇場がつくる夢の時間～劇団新宿梁山泊の冒険～」

1997年5月31日 会場：デビットホール（岡山市北区絵図町）

講師：大塚聡（建築家/舞台美術家）

移動する史上最強のテントシアター・新宿梁山泊の設計思想を解説

### 阪神淡路大震災シンポジウム

1994年4月から1年間、岡山市役所近くの6階建て空きビルが「自由工場」と称するアーティストの自主管理空間に変身。多彩な創作活動が展開された。その期間中の95年1月に阪神淡路大震災が勃発。大阪の演劇人と美術家、岡山の建築家による緊急シンポジウムを開催した。



### ■トークセッション

1999年3月発足

任意団体の「おかやまアートファーム」から特定非営利活動法人の「アートファーム」へ

地域や分野を超えた交流と対話のネットワークを構築する

□劇ぶれず創刊20号記念 トークセッション&パフォーマンス

「地域演劇の未来」

地域演劇情報季刊誌「劇ぶれず」20号で演劇評論家や演劇人との講演やシンポジウムを開催

1999年3月13日21日22日 会場：光田建材ビル（岡山市北区）

事業支援：福武教育文化振興財団

＜講演＞

「学校演劇に学ぶ～学校演劇のルーツを探る～」

チューター：赤木慎平（岡山県高等学校演劇協議会顧問）

「地域演劇の行方～地域と演劇の関係を問う～」

チューター：衛紀生（演劇評論家、舞台芸術環境フォーラム代表）

＜クロストーク＞

「学校演劇に学ぶ～アートと学校教育～」

スピーカー：森弥生（岡山大学附属中学校教諭）

大場真護（山陽女子高校教諭・演劇部顧問）

村田芳子（岡山大学教育学部教授ダンス部顧問）

コーディネーター：柳沢秀行（岡山県立美術館学芸員）

「演劇とメディア～情報発信と批評の狭間で～」

スピーカー：扇田昭彦（演劇評論家、朝日新聞編集委員）

小堀純（編集者、「劇の宇宙」編集長）

コーディネーター：小暮宣雄（全国市町村国際文化研修所参与兼教授）

「アートマネジメント～地域をつなぐ演劇と美術のこれから～」

スピーカー：衛紀生、小暮宣雄、小石原剛（美術家、地域と芸術計画代表）

大森誠一（おかやまアートファーム代表）

＜シンポジウム＞

「学校演劇に学ぶ～高校演劇の創作現場から～」

パネリスト：村上修（明誠学院教諭・演劇部顧問）

森脇辰彦（関西高校教諭・演劇部顧問）

橋本文彦（玉野高校教諭・演劇部顧問）

家野淳子（総社南高校教諭・演劇部顧問）

コーディネーター：柴田利明（高梁高校教諭・演劇部顧問）

岡山県高校演劇協議会事務局長）

「地域劇団の行方～我らが演劇の未来を語る～」

パネリスト：白神貴士（岡山市、秘宝館昇天堂一座）、海原伸二（倉敷市、劇団空想劇場）

中西由美子（津山市、きんちゃん座）、妹尾悟（井原市、劇団WaWa）

コーディネーター：衛紀生

＜パフォーマンス＞

ダンス公演・Laft「シシシの増やし方」

パフォーマー：明石めぐみ、三輪由紀子、在津明美、竹林佐恵、浜野美千子

□NPO法人アートファーム設立記念事業

「芸術文化の公共性とNPO活動」

アートと社会の接点で先駆的な活動を続けるアートファーム理事によるトークセッション

2005年5月28日29日 会場：さんかく岡山

＜基調講演＞「芸術文化の公共的役割と評価について」

講師：平田オリザ（劇作家・演出家、劇団青年団主宰、当法人副理事長）

＜シンポジウム＞「芸術文化と社会の多様な可能性について」

パネリスト：秋元雄史（美術家、地中美術館館長、当法人理事）

川上洋一（教育者、岡山市立岡輝公民館館長、当法人理事）

草加叔也（劇場研究者、空間創造研究所代表、当法人理事）

小堀純（編集者、大阪市精華小劇場演劇祭実行委員長、当法人理事）

坂手洋二（劇作家・演出家、劇団燐光群主宰、当法人理事）

鈴木滉二郎（文化政策者、高知女子大学教授、当法人理事）

水川直直（医師、水川内科小児科医院院長、当法人理事）

平田オリザ（劇作家・演出家、劇団青年団主宰、当法人副理事長）

大森誠一（プロデューサー、サンポートホール高松プロデューサー、当法人理事）

＜レクチャー＞「現代演劇の展望——創造の最前線から」

講師：坂手洋二（劇作家・演出家、劇団燐光群主宰、当法人理事）

□瀬戸内海文化研究・活動シンポジウム

「文化NPOによる汎瀬戸内ネットワークの構築に向けて」

瀬戸内海圏域で活動する文化NPOのキーマンが集い文化政策者とともに語り合う

事業支援：福武学術文化振興財団

2008年6月29日 会場：岡山市デジタルミュージアム講義室

＜シンポジウム①＞「地域づくりと文化NPOの役割」

ゲストトーク：伊藤裕夫（富山大学芸術文化学部教授）

パネリスト：伊藤裕夫、明石安哲（NPO法人アーツカウンシル高松副理事長）

鈴木美恵子（NPO法人シアターネットワークさひめ理事長）

コーディネーター：大森誠一（NPO法人アートファーム理事長）

文化NPOの中間支援組織としての役割を担う高松・愛媛の活動を紹介

＜シンポジウム②＞「文化NPOと協働の未来」

ゲストトーク：吉本光宏（ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室長）

パネリスト：吉本光宏、山口久仁子（NPO法人淡路島アートセンター常務理事）

辻均一郎（NPO法人勝山・町並み委員会理事長）

コーディネーター：大森誠一（NPO法人アートファーム理事長）

市民・行政・企業の協働事例を淡路島と真庭市の文化NPOが紹介

### NPO 法人アートファーム設立記念シンポジウム

任意団体の発足から13年を経て

NPO 法人として登記した。役員

には県内外の著名な演劇人、美術

家、建築家、文筆家、編集者、

行政官、教育者を擁護。文化芸

術によるこれからの社会づくりに

ついて多彩な意見が湧出した。



### ■舞台芸術一地域との対話

2010年7月実施

「地域と劇場」をテーマに第一線で活躍する舞台芸術の専門家を招いた連続講演シリーズ

事業支援：文化庁、福武教育文化振興財団

□風景としての劇場～地域とつながる野外劇場のチカラ～

講師：松本雄吉（演出家、維新派主宰）

7月2日 会場：岡山市デジタルミュージアム4F 講義室

維新派の主宰者が地域で野外劇を成立させていくプロセスを解説

□公共劇場とは何か～劇場法がもたらす地域の文化政策改革～

講師：平田オリザ（劇作家・演出家、劇団青年団主宰、内閣官房参与、大阪大学教授）

8月11日 会場：岡山市デジタルミュージアム4F 講義室

地域の舞台芸術や文化政策に新しい変革をもたらす劇場法について解

□地域の未来と劇場の使命～指定管理者制度と次なる変革～

講師：草加叔也（劇場コンサルタント、空間創造研究所代表）

9月10日 会場：岡山市デジタルミュージアム4F 講義室

指定管理者制度の導入にともなう地域の文化芸術施設の動向を解説

□劇場という名の社会装置～演劇が地域資源に進化する～

講師：中島諒人（演出家、鳥の劇場主宰）

11月26日 会場：岡山国際交流センター5F 会議室

演劇が廃校再生の劇場を媒介として公共性を獲得していく実践を解説





□ひととまちを元気にする劇場～夢の遊眠社と公共劇場の現場で～  
 講師：高萩宏（プロデューサー、東京芸術劇場副館長）  
 12月3日 会場：岡山市デジタルミュージアム 4F 講義室  
 野田秀樹と併走してきた敏腕プロデューサーが次代の地域と劇場を解説

■文化芸術による創造都市セミナー

2015年9月発足  
 岡山市の新市民会館建設計画を契機に劇場文化の第一人者を講師に迎えて学び考える講座  
 事業支援：岡山市、岡山県文化連盟、福武教育文化振興財団、みんなで作る財団おやかま  
 □2015年度【施設・環境編】

- ◇劇場とは何か——古今東西の歴史の変遷と現代における社会的役割  
 講師：草加叔也（空間創造研究所代表）  
 9月5日 会場：岡山市立旧内山下小学校・教室  
 古代からの劇場建築の歴史とともに公共財としての劇場の役割も解説
- ◇劇場はいかに誕生するか——劇場法などの法制度と多様な整備・運営方式  
 講師：伊藤裕夫（日本文化政策学会会長）  
 10月3日 会場：岡山市立旧内山下小学校・教室  
 文化芸術振興基本法、指定管理者制度、劇場法などの法制度を解説
- ◇劇場は誰のものか——文化芸術の社会的役割と地域・市民に開かれた運営  
 講師：吉本光宏（ニッセイ基礎研究所研究理事）  
 11月7日 会場：岡山市立旧内山下小学校・教室  
 地域・市民に開かれた劇場の方向や事業・運営のあるべき姿を解説
- ◇事例研究「地域劇場の挑戦」①  
 講師：衛紀生（岐阜県可児市文化創造センター館長兼劇場総監督）  
 12月5日 会場：さんかく岡山・会議室  
 観客創造のマーケティング戦略や社会包摂事業の可能性について解説
- ◇事例研究「地域劇場の挑戦」②  
 講師：松井憲太郎（埼玉県富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ館長）  
 12月19日 会場：さんかく岡山・会議室  
 地域資源を先駆的な文化発信やまちづくりに生かした自主事業を解説
- ◇事例研究「地域劇場の挑戦」③  
 講師：宮城聡（静岡県舞台芸術センター芸術総監督）  
 12月25日 会場：さんかく岡山・会議室  
 舞台芸術の専用劇場と稽古場を有する公立劇場の事業と運営を解説

- 講師：米原晶子（にしすがも創造舎チーフマネージャー）  
 11月5日 会場：さんかく岡山・会議室  
 豊島区の中学校と立川市の小学校をアーツセンターにした実践を解説
- ◇劇場への「成り方」講座②  
 廃校リノベーションの実践例「京都芸術センター」  
 講師：勝冶真美（京都芸術センタープログラムディレクター）  
 11月5日 会場：さんかく岡山・会議室  
 旧明倫小学校を総合芸術の創造拠点にした先駆的な取り組みを解説
- ◇劇場への「成り方」講座③  
 伝統建築物リノベーションの実践例「金沢市民芸術村」  
 講師：普照豊（金沢市民芸術村村長）  
 11月12日 会場：さんかく岡山・会議室  
 旧紡績工場群を365日24時間開館の文化芸術創造施設に再生した実践を解説
- ◇劇場への「成り方」講座④  
 伝統建築物リノベーションの実践例「ロームシアター京都」  
 講師：蔭山陽太（ロームシアター京都・支配人兼エグゼクティブディレクター）  
 11月12日 会場：さんかく岡山・会議室  
 前川國男設計建築の旧京都都会館を劇場にリニューアルした実践を解説
- 2018年度【アクセス・コーディネーターと共生社会編】  
 <レクチャー>  
 ◇表題：アクセシビリティ環境の創出  
 日時：10月27日（土）14:00～  
 講師：間瀬勝一（全国公立文化施設協会理事・アドバイザー）  
 内容：共生社会における文化芸術の役割と環境整備について
- ◇表題：シアター・アクセスへの提言  
 日時：10月27日（土）15:00～  
 講師：廣川麻子（NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク代表）  
 内容：聴覚障害者の立場から文化芸術施設のアクセス環境
- ◇表題：アートが担う新しい価値社会  
 日時：10月27日（土）16:00～  
 講師：田野智子（NPO法人ハート・アート・リンク代表）  
 内容：障害のある人とアーティストをつなぐ社会包摂を実現
- ◇共同討議「文化芸術と福祉社会をつなぐ課題」  
 日時：10月27日（土）17:00～  
 パネラー：間瀬勝一、廣川麻子、田野智子  
 コーディネーター：大森誠一（NPO法人アートファーム代表）  
 内容：共生社会や社会包摂に内在する文化芸術と福祉社会の乖離や誤解など多くの課題について語り合う

文化芸術による創造都市セミナー  
 2018年度には「アクセシビリティと共生社会」をテーマに講演とワークショップを開催。高齢者から障害者まで様々な対象者へのケアマネジメントが紹介されるとともに、日常に活用できるUDグッズを参加者が体験した。



- 2016年度【広場と拠点づくり編】  
 ◇基調講演「新しい広場をつくる～来たるべき文化芸術施設のために～」  
 講師：平田オリザ（劇作家、演出家、青年団主宰、東京藝大・大阪大・四国学院大教授）  
 10月8日 会場：さんかく岡山・会議室  
 “文化芸術立国”を提唱する平田氏が文化芸術施設の社会的使命を解説
- ◇劇場への「成り方」講座①  
 廃校リノベーションの実践例「にしすがも創造舎/たちかわ創造舎」

- <ワークショップ>  
 ◇表題：とつとつダンス・ワークショップ  
 日時：10月28日（日）10:30～  
 講師：砂連尾理（振付家・ダンサー）  
 内容：認知症や障害をもった高齢者との身体コミュニケーション
- ◇表題：アクセシブル・デザイン  
 日時：10月28日（日）13:00～①つながるUDトーク  
 講師：廣川麻子（NPO法人TA-net代表）  
 内容：コミュニケーション支援と「UDトーク」体験  
 日時：10月28日（日）14:30～②ひろがるUDグッズ  
 講師：徳田恭子（NPO法人まちづくり推進機構岡山代表）  
 内容：様々な生活シーンで進化するUDグッズを体験  
 会場：レクチャー/ワークショップ 岡山市市民会館・会議室